

2016年2月14日こけら落とし!

サッカーJリーグ・ガンバ大阪 新スタジアムの施設運営を支援 チケット管理システム、施設管理システム、販売管理システムを導入

当社は、2016年2月14日にこけら落としを迎えたサッカーJリーグ・ガンバ大阪の新スタジアム「市立吹田サッカースタジアム」(所在地:大阪府吹田市)へ施設運営支援システムを導入しました。

今回当社は、大規模スタジアムの円滑な運営に向け、チケット管理システム、施設管理システム、販売管理システムをご採用いただきました。これによりガンバ大阪では、座席管理・施設管理・売上管理の効率化のほか、スタジアム全体の売上管理・分析の実現をめざします。



Windows 10などの新プラットフォームに対応

ワークフローシステム「MajorFlowシリーズ」とオプション製品の最新バージョンを発売

当社の連結子会社であるパナソニック ネットソリューションズ株式会社は、2016年3月25日より、Windows 10などの新プラットフォームに対応した「MajorFlowシリーズ」と「MajorFlow Keihi」のオプション製品「勘定奉行連携オプション」の新バージョンを発売します。

昨今、高度化が進むサイバー攻撃に対処すべく、社内のインフラ環境をWindows 10などの最新版に更新する企業が増えています。新バージョンでは、Windows 10、iOS9、Android5.1などの新しいプラットフォーム上での動作に対応し、今まで以上に多くの企業で利用できるようになりました。今後もお客様のニーズに合わせ、機能強化を行ってまいります。

イベント・セミナー予定

東京地区

Cloud Days Tokyo 2016

日時 2016年3月10日(木)~11日(金)
10:30~18:00

場所 ザ・プリンスパークタワー東京
パナソニック ネットソリューションズ株式会社の「MajorFlow」を出展します。

SECURITY SHOW 2016

日時 2016年3月8日(火)~11日(金)
10:00~17:00 (最終日は16:30まで)

場所 東京ビッグサイト
ヴイ・インターネット オペレーションズ株式会社の「ArgosView」を出展します。

▼イベント最終日にセミナーを行います。
「街、施設、交通機関を繋ぐ防犯/防災都市のセキュリティ統合」

日時 3月11日(金) 14:20~14:50

大阪地区

Cloud Days 大阪 2016

日時 2016年3月17日(木)~18日(金)
10:30~18:00

場所 グランフロント大阪
パナソニック ネットソリューションズ株式会社の「MajorFlow」を出展します。

Move to Delight

IS クローズアップ

2016 03 Vol.47

パナソニック インフォメーションシステムズ

Close Up Now

データ管理をシンプルに!
「コピーデータ仮想化」がもたらすビジネス変革



TOPICS

2016年2月14日こけら落とし!
ガンバ大阪 新スタジアムの施設運営を支援

Windows 10などの新プラットフォームに対応
ワークフローシステム「MajorFlowシリーズ」と
オプション製品の最新バージョンを発売



あいえず☆うちのBOSS

販売・物流ソリューション事業部
物流・PSI部
部長 村上雅洋



▲増え続けるデータ量を最適化する「Actifio」

社長・前川の ちよっと一言!

「現場でのお役立ちを鍛える」

昨秋のW杯での躍進を機に、ラグビーの魅力に目覚めたという方は多いと思います。特に初戦の南アフリカ戦の劇的な逆転勝利は鮮烈な印象を残しました。3点を追う試合終了直前、PKのチャンスを得た日本はキックが決まれば同点という場面です。スクラムを選択、見事に勝利を掴み取りました。しかしこの場面、日本代表を指揮したエディー・ジョーンズヘッドコーチは「3点(同点)を狙え」と怒鳴っていたそうです。土壇場で、なぜ指示どおり同点を狙わず、スクラムを組んだのか。それは勝利という目的を達成するために最適だと選手、すなわち現場が判断

したからです。エディーHCは就任以来、日本人の良さを尊重した指導を行う一方、自己主張をしない点には常に改革を求め続けてきたそうです。あの日の現場の判断と勝利は、厳しい鍛錬に加え、最適だと判断したことを自ら選ぶマインドを身につけていたことで、もたらされたのではないのでしょうか。私たちが日々、お客様の現場や市場で厳しく鍛えていただいています。お客様の「最適」に向けて、社内での教育、研鑽はこれまで以上に、現場で真に必要なことを担当者自身が判断できるよう、しっかりとスキルを磨き続けてまいります。



代表取締役社長 前川 一博
Kazuhiro Maegawa

あいえず☆ うちのBOSS

その24

「恵比寿様のようにいつもニコニコ顔」と部下からの信頼を集めるのは、物流・PSI部部長の村上雅洋。入社4年目の山岡詩織が紹介してくれました。「当部署では経営情報管理(BI)システムの企画～導入～運用を担当しています。例えば物流なら、掛かったコストや物の動きなどは効率化を進めるための大事な情報。BIツールによってこれらを一元化し、新たな分析にご活用いただくのがミッションです。そんな彼女が常に意識しているのは「業務視点」だといいます。「BIツールがどんなに最先端の技術を備えていても、実際の業務に落とし込まれたくみでないとお客様には響きません。どういった情報を見る化すればより良い経営につながるのか?と考えていくのは難しいですが、そこが私たち

の腕の見せ所だと思っています。村上さんは自ら現場に入り込み、業務視点の大切さを私たち部下に示してくださる方。人脈の広さすごいなと思います。

印象的だったのは?と尋ねると、「物流・PSI部の発足当初」との答えが。「部員全員がそれぞれ中、村上さんが一人ひとりに声を掛けてくれたのはすごく覚えています。話をよく聞いてくださって、安心してこちらからも打ち解けられました。

良いシステムも良い職場も、大事なものは対話。そう感じさせる笑顔の絶えない取材でした!



販売・物流ソリューション事業部
物流・PSI部
山岡詩織

現場に行き、いろいろな人との人脈づくりをしっかりとしてほしいと思います。本当に困った時に相談に乗ってもらえたり助けてくれるのは、やはり現場の人が多く感じています。また失敗を恐れず、いろいろな事にチャレンジしてください。

今号の
ボス

販売・物流ソリューション事業部
物流・PSI部
部長
村上雅洋



編集 後記

今回ご紹介させていただいたのは、コピーデータ仮想化。データ総量の約8割が「コピーデータ」だと驚きました。この仮想化技術を採用すると、どれだけの費用・スペースを削減できるのでしょうか。パナソニックISの東京オフィスにオープンしたデモサイトでは、Actifioの機能・特長を体験していただけます。ぜひご利用ください。

発行元
パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
経営企画部 広報・マーケティングチーム
〒571-8501 大阪府門真市大字門真1006番地 パナソニック(株)本社内
TEL 06-6908-0245 FAX 06-6906-4717 http://is-c.panasonic.co.jp/
※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

データ管理をシンプルに! 「コピーデータ仮想化」が もたらすビジネス変革

データ爆発時代と言われて久しい昨今、ストレージへの投資は企業にとって大きな課題となっています。データがストレージを圧迫している要因のひとつは、同一のデータがバックアップ用・開発用など用途別に何重にもコピーされているから。今回ご紹介する「Actifio」は、そんな肥大化したデータ量を最適化するソリューションです!

増殖し続けるコピーデータ

「バックアップデータがすぐに使えない…」「データが増えすぎてストレージがいくらあっても足りない…」「運用管理が複雑で大変…」そう思ったことはありませんか?

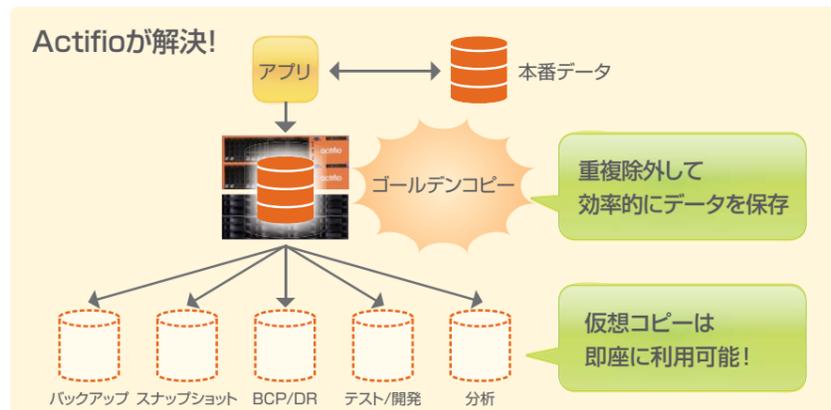
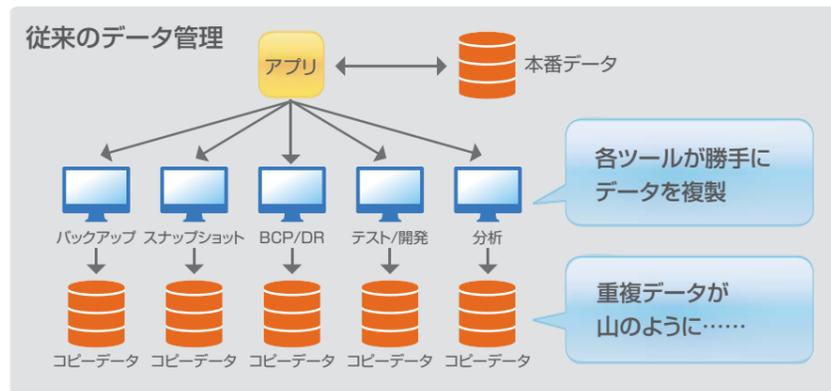
本番データと別に作られる「バックアップ用」「BCP/DR用」「開発/テスト用」などのコピーデータは、いまやストレージ容量の6割以上を占めていると言われています。先に挙げた課題を引き起こしているのは、増殖し続けるコピーデータが原因。では、なぜこのようなことが起こるのでしょうか? 従来のデータ管理手法は、バックアップ、スナップショット、災害対策など、それぞれ個別の管理ツールを組み合わせることで実現しているケースがほとんど。つまり、それぞれの管理ツールがバラバラにデータを複製し続けてしまうのです。

ゴールデンコピーが解決!

こうした課題を抜本的に解決するのが、Actifioの「コピーデータ仮想化」という技術。特長的なのは、本番から作成する「ゴールデンコピー」と呼ばれる単一のマスターデータです。従来バラバラに存在していた多数のコピーデータをこの「ゴールデンコピー」に統合することで、ストレージ容量を劇的に削減できるのです。

さらには、これを元にした「仮想的なコピー」を用途に応じて生成することで、どの時点のデータであっても即座に利用できるようになります。

例えばアプリケーション開発現場。開発やテストで本番データを利用する場合はデータの用意に1日以上掛かるのが一般的ですが、Actifioなら10分以内で用意することが可能です。これ



Actifioのコピーデータ仮想化技術が可能にすること

- ①用途に関わらず「いつでも」「すぐに」データ活用できる!
- ②障害が起きても即座に業務再開できる!
- ③ストレージコストを削減できる!

により開発リードタイムを大幅に短縮できます。リカバリ)環境の構築にも有効。重複除外を施したゴールデンコピーならサイト間のコピーデータ仮想化はデータ管理をシンプルにし、データ転送も軽量化できるため、DR(ディザスタ・数々のメリットを生み出してくれます。



「シンプルに、迅速に、そして便利にデータを使いこなす」
—アクティフィオジャパン株式会社 代表社長 勝俣 正起 氏

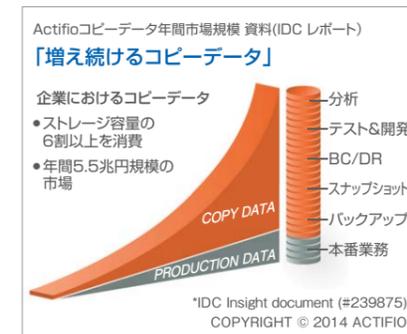
—はじめに、Actifio社の歴史を教えてください。コピーデータ仮想化というアイデアはどういう経緯で生まれたのでしょうか。

Actifioは2009年に創業者・最高経営責任者(CEO)でもあるアッシュ・アシュトシュが設立しました。彼は元々データマネジメントの技術者であり開発者です。彼はデータ管理に長く携わるなかで、マスターコピーによるコピーデータ効率化を考えたのです。そして本社のある地元ボストンで、近隣の企業のお客さまの意見を聞きながら開発を進め、2012年ごろから一気に展開を広げていきました。日本での本格的な展開は2013年からで、約3年になります。

—コピーデータ仮想化は最近「仮想化の第三の波」としても注目されていますが、ずいぶん先取りだったんですね。

当時からデータの増加は問題視されていましたが、ここ数年の増加は、そのときよりもっと爆発的です。その原因は何だったのか。コピーデータ仮想化が「仮想化第三の波」と言われる背景に何があるのか。実は、いわゆる本番データの増加もさることながら、その数倍、もしかすると10倍近い勢いで増加しているのは、本番データを複製した「コピーデータ」なのです。いまやデータ総量の5分の4、あるいは6分の5がコピーデータだと言われています。Actifioは、このコピーデータを仮想化し効率化しようとするものです。

—Actifioは全世界の二千社以上が採用しているそうですが、コピーデータ仮想化は企業のどういった業務の効率化にニーズがあるのですか? バックアップやDRはもちろん、最近ではクラウド



▲企業は本番データに比べ、圧倒的に多くの費用をコピーデータ管理に費やしている。

サービスプロバイダの採用が増えています。Actifioは一つのインターフェースでGUIによりさまざまなサービスレベルの設定ができるので、そのシンプルさが高く評価されているのです。一方、金融系の企業を中心に開発にコピーデータを活用するニーズが急速に高まっています。Actifioで最初にマスターコピーを用意すれば、本番相当環境を迅速に構築できるので、開発スピード、

すなわち競争力が上がるというのですね。これはお客さまの声から生まれた新しいコピーデータの活用方法であり、当社も今後提案を進めたいと思っています。

—リセラー契約を締結したパナソニックISに期待することを教えてください。

パナソニックISとは、すでに共同で提案活動などを進めています。今後「アーリーアダプター」と呼ばれる先進的な取り組みを進める企業に対して、一緒に打って出られればいいですね。

—今日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

(取材は2016年1月26日)



アクティフィオジャパン株式会社
代表社長
勝俣 正起 氏

コピーデータ仮想化技術の魅力を体験できる! Actifio デモサイト

パナソニックISでは2016年1月、Actifioを用いたDR(ディザスタ・リカバリ)のデモサイトを東京オフィスにオープンしました。

バックアップ・ストレージの効率化はもちろんのこと、開発・検証環境での活用にも、そしてDRにと、Actifioのさまざまな機能・特長を実際に体験していただけます。デモをご希望のお客さまは、事前に下記お問い合わせ先へご連絡ください。

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
営業統括部 東日本ソリューション営業部 東日本第一営業所
【Phone】03-3437-1430
【E-mail】sales-pisc@ml.jp.panasonic.com